

練馬通信

No. 401

令和2年9月30日
練馬第二小学校
校長 濱中 一

新しい学校生活の中で

校長 濱中 一

九月十二日(土)の学校公開には、多くの保護者の皆様にご足をお運びいただきありがとうございました。本来であれば、子供たちの姿を間近で見たいところでしたが、子供たちと来校者の接触を避ける観点から、廊下からの短時間の参観とさせていただきます。ご理解ご協力をありがとうございます。今後も、子供たちを守る視点から、十分に対策を講じていきます。学校HPを毎日更新し、学校での子供たちの様子をお伝えしていきます。どうぞご覧ください。

九月の大型連休中、各観光地や繁華街では、緊急事態宣言前に迫る賑わいが見られました。しかし、テレビに映る人々のマスク姿、他の人と一定の距離をとり合う姿からは、これまでとは異なる、新しい日常生活の姿も感じられました。コロナウイルスの特効薬が未だ開発されない中、このまま新規感染者、重症患者が増えないことを願うばかりです。

学校においても、コロナウイルス感染防止をふまえた新しい学校生活が始まっています。きつと長い期間続くであろうこの状況において大切なのは、子供たち自身が、大人の指導を受けなくても自然にできる『感覚』を身に付けることです。つい興味があると近寄って集まるのが子供。友達と談笑しながら自然に寄り合っていくのが子供。だからこそ本校では、機会ある度に、子供たちに繰返し指導をしています。これからの「マスク」「手洗い」「一米ートル」を繰返し指導することで、自らが付き自然に行動できる『感覚』を子供たちに身に付けさせていきます。

さて、運動会、学芸会を、今年度は中止といたしました。子供たちは本当に残念な思いだったことでしょう。何とかして、子供たちが輝く姿を披露できる場を設定できないか、教職員一同検討を重ねました。

そして、十月三日(土)と十月十日(土)に『たけまるスポーツフェステ

イバル』を行うことにしました。学年ごとに時間を設定し、子供たちが運動する姿を発表します。保護者の皆様には、ぜひご来校いただき、子供たちが生き生きと運動する姿をご覧くださいたいと思います。詳細は、先日お配りしたお知らせをご覧ください。なお、地域の皆様は参観をご遠慮ください。ますよう、ご理解ご協力をお願いいたします。

また、十一月二十八日(土)には、学芸的行事として『たけまるアートフェスティバル』を行います。詳細は改めてお知らせいたします。ご予約おきください。

九月の朝会より

○目標を決めることは大切。自分の課題を見つめて、二学期も努力しよう。

○台風は事前に身を守る災害。地震や台風などの災害があつたらどう行動するのか、家族で相談しておこう。学校は、お家の人が迎えに来るまで、君たちをしっかりと守ります。

○朝会でのあいさつはとても元気！どこであつても笑顔であいさつをしよう。

十月の行事予定

- 1 (木) 歯科検診(一・二・五年)
 - 3 (土) たけまるスポーツフェスティバル①(二・三・四年)
 - 8 (木) 歯科検診(三・四・六年)
 - 9 (金) 交通安全歩行訓練(一・二年)
 - 10 (土) たけまるスポーツフェスティバル②(一・五・六年)
 - 12 (月) お話の会(二年)
 - 13 (火) お話の会(二年) 個人面談①
 - 15 (木) 心臓検診(二年) 個人面談②
 - 16 (金) あゆみ渡し 個人面談③
 - 19 (月) クラブ活動 避難訓練
 - 21 (水) 研究授業(四―二以外四時間授業)
 - 23 (金) 離任式(一年以外六時間授業)
 - 26 (月) クラブ活動
 - 29 (木) 個人面談④
 - 30 (金) 個人面談⑤
- ※行事は都合により延期・中止になることがあります。



★今月の生活目標

・元氣よく運動しよう。

★週の生活目標

- ・さそいあつて遊ぶ。
- ・薄着で遊ぶ。

学校大好き一年生

一学年担任

四月に入学して、たった約七十日間の登校日数ですが、いろいろなことに挑戦しました。そして、日々たくさんのご褒美を吸収しています。

国語の学習では、ひらがな、カタカナ、そして最近ですと漢字の学習が始まりました。みんなで元氣よく空書き、指書き、なぞり書きをしながら丁寧に学んでいます。

算数では、ブロックを使い、たし算・ひき算ができるようになりました。また、最近では、時計の学習もしたので、時間への意識がさらに付いたと同時に、時計が読める実感も日々味わって生活しています。

生活面においては、給食や掃除も自分たちで協力して頑張っています。最初は学習支援員や専科の先生方の協力もあっておかげで、今では自分たちでやる喜びを感じています。そして、配膳台を返しに行った時に、「今日も給食とてもおいしかったです。」といった声が聞こえてくることに、感謝の心も少しずつ育っていると感じています。

今年には新型コロナウイルスの影響で学校行事が中止・縮小・延期になりました。そんな中で最近では、「たけまるスポーツフェスティバル」に向けて、子供たちは一所懸命練習しています。そして、勝敗を超えたすばらしさも、日々感じながら

取り組んでいます。今後も子供たちの笑顔をお届けしていきたいと思っています。

バリアフリーな町をつくろう

四年担任

四年生は、総合的な学習の時間に、福祉について学習しています。「バリアフリーな町をつくろう」というテーマに沿って、自分の課題を見つけて調べ、障害のある方々へのかかわり方や、地域社会に対して自分にできることを考えています。

まず初めに、町にはどのような人々が暮らしているのかを考えました。子供や大人、障害のある人、病気を抱えている人、怪我をしている人、お腹に赤ちゃんのいる人など、様々な人が暮らしていることを認識しました。次に、数ある障害の中から視覚障害、聴覚障害、肢体不自由のある人々について、自分の課題をもつて調べることにしました。障害のある人々が感じている困難さや、それを助ける道具や施設について知り、関心を深め意欲的に調べていきました。そして、自分でできることは何か真剣に考え、新聞を作ってみていきます。

この学習を通して、四年生の子供たちは、自分たちの暮らしをよりよくするために、様々な人たちの立場になって考えることが大切だと学び、実践意欲をもつことができています。この地域の将来を担っていく子供たちが、社会の中で

他者と協働して生きるよさや喜びを感じ、活躍してくれたいことを願っています。

校内研究について

研究主任

今年度、練馬第二小学校では、研究主題を「主体的に学ぶ児童の育成」自ら学ぶ楽しさを味わえる指導の工夫を通して」として算数科を中心に校内研究を進めています。

“主体的に”何かをすることは、大人でもなかなか難しいことです。ましてや嫌だな、やりたくないなど思っていることはつい後回しにしてしまいます。しかし、やりたい、やってみようと思うことは、誰かに声を掛けられるまでもなく、新しいことを覚えようと努力したり、繰り返し取り組んだりして、自ら学ぶことができるようになります。私もサッカーが上手になりたくて、朝から晩までボールを蹴り続けた記憶があります。学校の勉強、特に今年度は算数に関して、主体的に児童が学びを進めていけるように、どうしたらよいかについて、日々の授業を通して考えています。

七月に算数に関する実態調査を行った結果、「算数の勉強は楽しいですか」の質問には、八割の児童が「とても楽しい」「楽しい」と回答し、算数の学習については肯定的に捉えている児童が多くなることが分かりました。一方、「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答

した児童が二割(約六〇名)いるということも分かります。

このことから、まずは、①算数の勉強が楽しいという児童を増やすこと、②主体的に学ぶことができるような手だてを講じて、授業を行っていくことを意識して、研究を進めていきたいと思っています。

たけまるアートフェスティバルにむけて

学芸的行事委員

コロナ禍の中、例年であれば学校の大きな行事として学芸会が予定されました。子供たちが素敵に一回り成長できる学芸会がなくなってしまうのは、学校にとってはあまりにも大きな痛手です。ソーシャルディスタンスが子供たち同士、心の距離になってしまわないかも私たちの心配の一つです。

そこで、何か一つでも「おっ！」とか「学校が一つになったね。」と思えるような体験ができないかと考え、集合制作「こよりdeタワー」に全校で取り組み始めました。チラシを細く細くクルクルこよりにして、そのこより同士を差し込み合せてひたすら長くつなぎ体育館にタワーとして建てようと言う企画です。現在は、夏休み前から集め始めたチラシでひたすらこよりをつくっている状態です。「全校で一百万本以上のこよりで！」という概算で取り組んでいます。果たして、アートフェスまでにしっかり立ち上がるでしょうか……。